

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4171700182
法人名	有限会社 ライフケア
事業所名	しきぶの里
訪問調査日	平成 19 年 11 月 9 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 8 日
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171700182		
法人名	有限会社 ライフケア		
事業所名	しきぶの里		
所在地	佐賀県嬉野市塩田町大字谷所甲2385番地1 (電話) 0954-66-2970		
評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成19年11月9日	評価確定日	平成20年1月8日

## 【情報提供票より】(平成19年10月23日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 8人	非常勤 0人 常勤換算 8人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り
------	--------

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無
食材料費	朝食	250 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,150 円		

### (4) 利用者の概要( 11 月 23日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	1 名	要介護2	5 名
要介護3	3 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 80.55 歳	最低 73 歳	最高 88 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	樋口病院・栗山歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山や田に囲まれた自然環境に恵まれ、地域に農家が多く、新鮮な野菜を頂いたり、ホームの畑で採れたものをお返ししたり、古くからのお隣さんのお付き合いが自然に行われている。開設して2年であるが、「地域の人々との交流を図る」という理念の通りに、町内や近隣の市町村よりボランティアの出入りや、小学生や幼稚園児の訪問が多く、地域を大切にする心が伝わってくる。木造平屋建てのホームは明るく清潔な印象で、訪問調査日は入居者が主体となり昼食のだご汁をみんなでつくる賑やかな声が聞こえていた。スタッフが医療に関する知識や経験を活かし、終末ケアにおける個別支援も充実している。

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価では市町村との交流が改善課題であったため、ホームから市町村の担当者へ働きかけが行われている。老人会や婦人会での説明会も行うなど、理解が得られるよう努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価をスタッフ全員で話し合いながら記入し、サービスの質の改善に取り組んでいる。運営推進会議のあり様が課題となり、議題の上げ方を工夫したいと考えている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、自己評価や外部評価について説明をしたり、災害時の協力態勢についてお願いをしている。未だ開催回数も少なく、ホームの理解を得るところである。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見を気軽に言ってもらえるよう普段の付き合いを大切に考えている。面会時に日頃の様子を報告したり、電話連絡や近況報告を密にしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>老人会、婦人会の受入やボランティアは個人・団体と多数の受入があり、地域に開放されたホームといえる。又近所の小学生や幼稚園児が遊びに来て、入居者も孫のように喜ばれている。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型となり、「地域の人々との交流を図り、家庭的な雰囲気の中で、もてる力を発揮できるよう支援します。」という地域とのつながりを重視した理念を作り上げている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会で理念についての具体的な取り組みを確認しあう等、日頃のケアを振り返る機会をつくったり、日常的な業務の中で職員の育成に力を入れている。地域との交流を大切にしたり、入居者のできることを重視する等、実践に向け取り組みが窺える。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会や婦人会・ボランティアの受入と小学校や幼稚園からの訪問など、地域との交流がある。野菜を頂いたり、ホームで収穫したものを配ったりするなど日頃の交流にも積極的である。		
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を浸透させる為、スタッフ全員で協議、記入しサービスの質の向上に役立てている。前回の評価で市町村との交流が改善点となっており、老人会や婦人会との交流を計画し、実施した。		
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、自己評価、外部評価の結果も報告し意見をもらうなど、改善に努めている。運営推進会議が開催されてまだ回数が少ないこともあり、ホームを理解していただいているという段階であるが、今後有意義な会議にしていきたいという姿勢が窺える。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の保健師との懇談会をホームで開催し、入居者の個別訪問をしてもらったり入居相談を受けたりしている。介護相談員も受け入れ、ホームからの相談もできている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、入居者毎に写真入りの近況報告書を作成し金銭出納記録とともに、家族へ郵送している。個別の近況報告により、ホームでの暮らしが理解できると、好評である。職員の移動については、面会時に挨拶をするなどして報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時の対応などで日頃から信頼関係を構築し、家族会の開催など気軽に意見を言ってもらえるよう心がけている。入居者のリハビリに対する意見があり改善できた例もある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職を少なくする為、有給休暇の取得も計画的に行っている。担当を代わる場合は、出勤日数を徐々に減らすなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は段階に応じた外部研修を計画し、質の向上に繋がるよう、積極的に受講している。外部研修受講後は月1回の勉強会で報告し、学びをスタッフに周知している。又入居者との関わりの中で、気づきをスタッフに伝え育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所からの見学を積極的に受け入れ、交流の機会としている。又管理者や他の職員がこれまで構築してきた関係や連携機関との交流が続き、質の向上に繋がっていると考えられる。佐賀大学の研究員の受入もして、学びの場の提供としても貢献している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居体験として、まずは顔合わせから半日、1日というように徐々にホームや他の入居者に慣れて頂くような配慮をしている。ホームに慣れてもらうよう、声掛けを多くするなどコミュニケーションを図り安心していただくように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴により得意な事を把握し、日々の生活の中で、その能力が発揮できるよう支援している。できる事をしてもらい本人の達成感や自信へ繋がるように労いや褒め言葉を多くした関わりをしている。郷土料理などを入居者から習うことも多い。		
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントを詳しく記録し、個別のケアに活かすように取り組んでいる。担当のスタッフが夜勤の時に、ホームの暮らしについて、ゆっくり聞く時間を作り、本人の希望、意向を把握している。困難な場合には、行動を見守り又共に行動し心に添うよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は本人や家族の要望を聞き、それを反映した計画を作成している。家族から歩行させたいとの希望がある方は散歩を取り入れたり、字が上手との情報で習字を取り入れたり、個性が窺える計画を作成し実施している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の目標毎に毎月モニタリングをし、3ヶ月・6ヶ月置きに担当者会議を開き見直しをしている。状況の変化があればその都度話し合い、計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	小学生や幼稚園児にホームを遊びの場として提供したり、自宅への外出に同行するなど、利用者や地域が求める機能性を考え柔軟な支援をしている。医療経験豊富な看護師の能力を活かし、地域のお年寄りのバイタル測定などで健康管理をし役立ちたいと計画中である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の選択で医療機関を決定している。入居前のかかりつけ医に受診される方もおられ、家族の状況により、通院も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族に看取りの指針を説明し、意向を確認している。家族の同意を受けて看取りをする場合には、看取り介護計画書を作成し、主治医への情報提供や訪問看護を利用するなど細やかな配慮がなされて、その実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉掛けに配慮し、一人ひとりの人格を尊重した関わりが窺える。折にふれ職員の意識向上を図るためのケアが提供される中で、指導、育成に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは、毎朝希望を聞く時間をつくり、入居者それぞれの要望に添った対応に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は献立、買い出し、料理と、作るプロセスを大切に入居者とスタッフが、楽しみながら準備している。スタッフも介護をしながら同じものを一緒に食べている。入居者から「○○を作りたい」との意見表出の場合もあり、それらの希望に応じた食事作りがなされている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望や習慣を聞きながら、それに添ったゆっくり、ゆったりした支援をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	理念に「もてる力を発揮できるよう支援します」と掲げているように、一人ひとりのできる事、できそうな事に着目し、持てる力を引き出し自信につなげる事を職員が丸となり取り組んでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の魚屋へ買い物に行ったり、ドライブや散歩など日常的に、個々に支援している。希望により入居者宅へ柿ちぎりに出かけたりもしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけずに開放している。入居者の帰宅欲求に対して、担当を決めて散歩に行くなど、状況に合わせた支援に努めている。日頃からさりげない見守りを行い玄関にチャイムを設置している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	入居者と、避難訓練を行っている。運営推進会議では、災害時の協力が得られるようお願いし、消防団や地域の方とも話し合いをしている。	○	災害時における地域の協力体制について、消防団や地域の方々と検討されているところであり、地域住民の参加、協力を得ながらの避難訓練の実施や具体的な支援体制の整備が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は個々に記録され、だれでも把握できるようにしている。入居者の体格や習慣により異なるが、水分摂取に関しては必要に応じ、目標量を設定し記録している。定期的な血液検査により、栄養状態を評価し、豆乳を勧めるなどの対策も実施している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間である台所から包丁の音や入居者のおしゃべりが楽しそうに聞こえ、家庭的な雰囲気がある。ホールのテーブルは掘りごたつ式となっており、季節の花を飾り、会話を引き出す働きかけをしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具が持参され、家族の写真や賞状など、その人らしさが感じられる。仏壇に花やお菓子を供えるのを楽しみにされている方も居られる。又それぞれの居室には入居者の状態に応じた手すりが設置されている。		